

令和2年度事務事業実績評価表

1 事業概要

		課名	中央図書館	事業No.	303
事務事業名		会計	一般会計		
		事業区分	政策	実施区分	継続
		開始		終了	
根拠	主要区分	主	記号	計画等名称	
	戦略計画				
	分野別計画			飯田市教育振興基本計画	
				飯田市立図書館サービス計画	
法令・例規等			図書館法		
			飯田市立図書館条例		
			公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示)		
事業目的	対象	市民			
	意図	読みたい図書や知りたい情報を得て心豊かな暮らしができる。			

2 事業内容

2年度取組	取組内容		経費の内容				事業費(千円)	
		・利用者からのリクエストを最優先に、幅広くニーズに対応できるように実用書・専門書等選択して購入しました。また中央・上郷図書館で分担購入を進めました。 ・コロナ禍で貸出数は減少しましたが、インターネット予約が増加、短時間滞在の利用で貸出を継続しました。 ・郷土資料は重点的に収集・保存・提供し、分館では地区の特色に関するテーマ本コーナーの設置を進めました。 ・読むことが不自由な方に録音図書や大活字本を提供しました。 ・創業塾や講演会等で関連図書リストの配布や図書紹介を行いました。	一般(大人)向け図書購入費					24,632
		郷土資料デジタル化業務委託料					1,233	
		書誌データ作成業務委託料					1,870	
		コンピュータシステム保守点検業務委託料					1,980	
		コンピュータシステム機器使用料					3,999	
		図書搬送業務委託料					1,371	
		会計年度任用職員人件費					19,177	
		その他の経費					3,012	
活動指標	指標名 (数値で表せる活動量)	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
			計画	実績	計画	実績	計画	
	購入冊数	冊	21,000	22,397	21,000	22,019	21,000	
	貸出利用者数	人	206,000	199,036	202,000	209,034	199,000	
	レファレンス件数	件	3,500	3,157	3,500	3,566	3,300	
	録音図書貸出タイトル数	件					2,400	
	社会・経済・産業部門の蔵書冊数(中央)	冊	48,000	48,143	48,000	49,224	48,000	
2年度決算(千円)	予算額	58,396	特定財源内訳及び補足事項					
	決算額	57,274	(そ) コンピュータシステム運営事業負担金 430千円 (そ) 図書館ネットワーク館搬送業務負担金 393千円					
	財源の状況	国庫支出金	0					
		県支出金	0					
		地方債	0					
		その他	823					
一般財源	56,451							

3 事務事業を構成する予算科目

番号	会計	款	項	目	大 事 業	中 事 業	予算額	決算額	中事業名(科目名称)
1	1	10	5	5	1	3	19,960	19,177	会計年度任用職員人件費
2	1	10	5	5	10	1	5,164	5,105	図書館管理・運営費
3	1	10	5	5	10	2	24,852	24,833	図書購入費
4	1	10	5	5	10	3	5,979	5,978	コンピュータシステム運営事業費
5	1	10	5	5	11	1	2,058	1,839	図書館事業費
6	1	10	5	5	11	2	383	342	ビジネス支援サービス事業費
7									
振り返り課題認識		<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズが多様化し、ニーズに対応できる蔵書の充実と、求められる図書・情報を速やかに的確に提供する方策が必要です。 ・市内の誰もが読みたい図書や情報が得やすいように、読書環境を整えることが必要です。 ・地域の歴史・文化の記録である郷土資料を蓄積し、学びや課題解決に活用できるようにすることが必要です。 							
上記の課題解決のための有効策		<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況等からニーズを把握し、幅広い図書収集と、的確な提供のためレファレンス事例活用に向けて取り組みます。 ・身近に使える分館の充実や、読むことが不自由な人への図書提供を進めます。 ・郷土資料を継続して収集し、活用するために整理・保存・情報発信を行います。 							
次年度に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・利用ニーズに対応した図書を購入・提供するとともに、レファレンス事例の活用検討を進めます。 ・各分館の蔵書整備と利用PRを進めます。また録音図書・大活字本等の提供を継続します。 ・郷土資料を収集・整理し、展示・紹介等や利用の呼びかけを行います。 							